

非常持出品の用意

道路の渋滞や寸断で食料等の配送が困難な場合や、断水や生産拠点の被災等により食料や飲料水が不足します。

食料：最大約345万食不足

飲料水：断水 約35万7千戸（全体の約30%）
（名古屋市域の被害想定）

非常持出品（避難するときにもっていくもの）

備蓄品として7日分程度用意し、内3日分程度を非常持出品へ

飲料水 1人1日3ℓ分必要です。

- 断水により、水の確保が大変だった。（熊本地震）
- 乳児用のミルクを作る水がなかった。（阪神・淡路大震災）



食料 高齢者や乳児がいる方は、それぞれ配慮した食料を用意しましょう。

- 高齢者に配慮した食事が用意できず、堅いおにぎりしかなかった。（阪神・淡路大震災）
- 乳児の粉ミルク等も確保が困難であった。（阪神・淡路大震災）



トイレ 携帯トイレ、簡易トイレ、トイレ用紙等を用意しましょう。

- トイレを控えようとして、食料や水を口にできなかった人もいた。（新潟県中越地震）
- 自宅でごみ袋に排泄する期間が続いた。（東日本大震災）

防災用品 携帯ラジオ、ヘルメット・防災ずきん、軍手、マスク

貴重品 現金、通帳の写し、健康保険証・免許証の写し、印鑑、携帯電話など

照明等 懐中電灯（電池含む）、マッチ・ライター

医療用品 三角巾、包帯・ガーゼ、ばんそうこう、消毒薬、ウエットティッシュ、お薬手帳の写し

食料品関係等 食料・飲料水、はし、スプーン、紙皿・紙コップ

便利用品 筆記用具、新聞紙、携帯用トイレ、ゴミ袋、キッチン用ラップ、使い捨てカイロ、雨具、手動携帯電話充電器

衣料品 衣類、タオル

その他個人的に必要なもの 粉ミルク、紙おむつ、生理用品、予備のメガネ・補聴器、常備薬など

備蓄品（非常持出品に加え、災害時に備えて用意しておきたいもの）

防災用品 給水用ポリ容器・バケツ、ロープ、ボール、のこぎり・工具

燃料 カセットコンロ、予備のボンベ、固形燃料

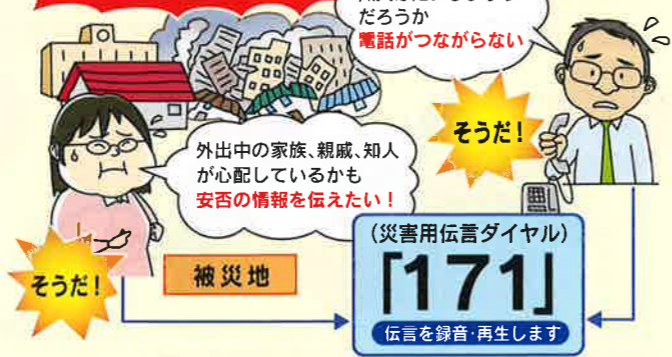
寝具等 毛布、寝袋、キャンプテント



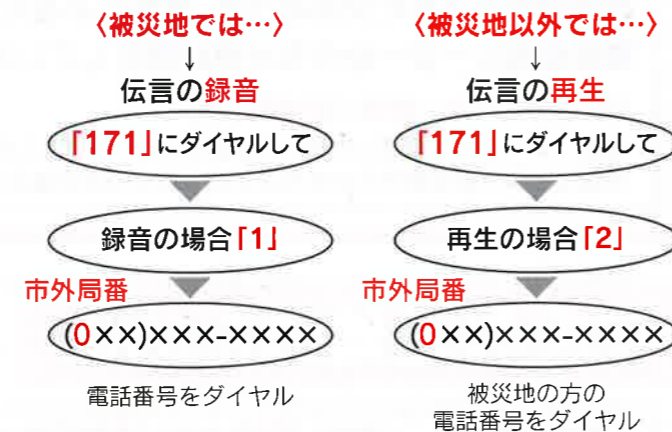
安否確認方法

連絡方法 **171** 忘れてイナイ？
災害伝言171と覚えてください。

大災害発生 被災地の家族、親戚、知人はだいじょうぶだろうか 電話が繋がらない



伝言の録音方法と再生方法



試して安心！安否確認手段

- 災害用 伝言板サービス
- 災害用伝言板171(web171)
- SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
- Googleパーソンファインダー
- 安否情報まとめて検索「J-anpi」

家族防災会議の実施

家族で話し合い、認識を一致させ、家族全員が行動できるように日頃から話し合いをしておきましょう。

消防署一覧

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ■千種消防署
TEL.764-0119 FAX.752-1119 | ■熱田消防署
TEL.671-0119 FAX.681-0119 |
| ■東消防署
TEL.935-0119 FAX.937-4468 | ■中川消防署
TEL.363-0119 FAX.362-0119 |
| ■北消防署
TEL.981-0119 FAX.915-0119 | ■港消防署
TEL.661-0119 FAX.653-0119 |
| ■西消防署
TEL.521-0119 FAX.532-0119 | ■南消防署
TEL.825-0119 FAX.822-6133 |
| ■中村消防署
TEL.481-0119 FAX.483-0119 | ■守山消防署
TEL.791-0119 FAX.793-0119 |
| ■中消防署
TEL.231-0119 FAX.222-0119 | ■緑消防署
TEL.896-0119 FAX.891-0119 |
| ■昭和消防署
TEL.841-0119 FAX.842-0119 | ■名東消防署
TEL.703-0119 FAX.703-0104 |
| ■瑞穂消防署
TEL.852-0119 FAX.852-6223 | ■天白消防署
TEL.801-0119 FAX.806-0119 |

※このリーフレットは、古紙/パルプを含む再生紙を使用しています。

南海トラフ巨大地震など 巨大地震から命を守るために！

南海トラフ巨大地震の発生確率と本市の被害想定

《発生確率》

○南海トラフ巨大地震は**30年以内**に**70%**程度の確率で発生すると想定(地震調査研究推進本部)
《名古屋市域の被害想定(あらゆる可能性を考慮した最大クラスの場合)》

○想定震度 **6弱から7**

○津波浸水想定区域 中村区、瑞穂区、熱田区、中川区、港区、南区、緑区

○死傷者 **約21,700人** 揺れによる全壊棟数 **約34,000棟** 地震火災焼失棟数 **約21,000棟**

被害想定を踏まえ

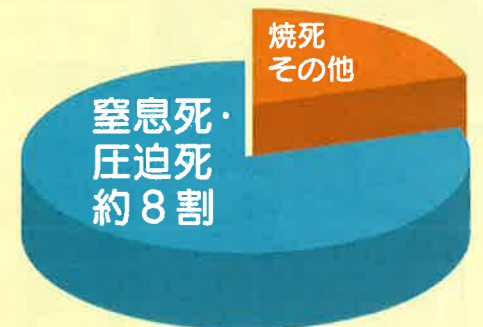
《地震の揺れ以外に留意する点》

『津波浸水想定区域』『延焼火災の発生リスクの高い木造住宅密集地域』『土砂災害の発生のおそれのある地域』は、地震後に発生する津波、火災、土砂災害から速やかに避難できるよう、耐震化や家具固定など命を守るための対策を早急に変更する必要があります。

阪神・淡路大震災では

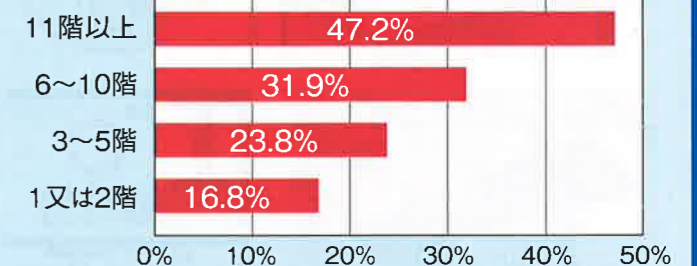
死者の約8割が
家屋の倒壊や家具の転倒により
圧迫死・窒息死でした。
また、その大半が即死でした。

さらに、家屋の倒壊等により、木造住宅密集地域では大規模な延焼火災が発生したり、避難障害や消防車等緊急車両の通行障害など、地域へ大きな被害をもたらしました。



東日本大震災では

マンションなど高層階になるほど、
家具類の転倒・落下・移動する割合が
多くなり、火災の発生や、挟まれたり、
ぶつかることによる負傷、通路を塞ぐなど
の避難障害が発生する危険があります。



階層別家具類の転倒・落下・移動発生割合

※「移動」とは、家具類が転倒せずに概ね60cm動いた場合をいいます。
東京消防庁ホームページ「平成27年度版家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」より転載

名古屋市消防局

